

プロスポーツが地域にもたらす効果に関する研究 A Study on the Effect of Professional Sport on region

1K09B005

指導教員 主査 間野義之 先生

足立 昌平

副査 木村和彦 先生

【研究背景・目的】

地域経済の落ち込み、地域産業の衰退、地域コミュニティの希薄化など地方自治体は様々な問題を抱えている。少子高齢化や医療費の増大など現代の社会問題の一部は地方都市にとってより顕著といえる。近年、こういった問題の解決策として、スポーツが注目されている。宮本ら(2007)は、これからの地域活性化には、スポーツ振興が有効であり、スポーツは地域の活性化に大きく貢献すると指摘している。実際に、スポーツによる街おこしに取り組んでいる自治体も多く、スポーツイベントの開催や、プロスポーツチームの誘致などに力をいれている。また、プロスポーツの地域密着型の経営・運営が注目を集め、地方都市への本拠地の移転や新たなプロリーグの設立など地域とスポーツとの結びつきが以前にもまして強くなってきている。こういったことから、今後さらに地域とスポーツとの関わりが重要視され、地域再生の要因の一つとしてスポーツへの注目は高まることが予想される。中でも、プロスポーツが拡大傾向にある。地方都市にプロスポーツチームが設立されている例も多く、地域コミュニティの構築や地域活性化など地域の再構築の起爆剤としてプロスポーツが注目されている。プロスポーツチームが存在することによって、地元や地域住民に対してどのような影響を与え、どのようなインパクトや効果をもたらすのだろうか。こういった疑問からプロスポーツが地域にもたらす効果を明らかにし、地元でプロスポーツチームがあることの存在意義を明らかにしたい。そして、今後どのように地域とプロスポーツチームが関わっていくことで、地域に貢献し地域活性化に繋がっていくのか明らかにしたい。

【研究方法】

スポーツによる地域活性化と言っても活性化という用語は様々な場面で使われており、地域活性化という概念が意味する所も多様と言える。そこで、今回の研究では、先行研究や散在している論文、書籍を整理することで活性化又は地域にもたらす効果を大きく「経済的に測定できる効果」と「経済的に測定できない効果」の2つに分けて考えていきたい。そして、経済的に測定できる効果や測定できない効果(例えば地域住民に与える社会的効果や心理的効

果、公共財としての価値など)の影響力を把握し、プロスポーツによる地域活性化の可能性、意義を考察したい。

【結果】

プロスポーツが地域にもたらす効果として経済効果以外にも教育的効果や社会的効果、心理的效果といった地域住民や自治体に与える非常に大きな効果があることがわかった。具体的な効果としては、地域コミュニティの形成や地域連帯感の向上、地域への誇りやアイデンティティの醸成などが挙げられる。その他にも、地元のプロスポーツへの関与と地域愛着、地元愛との関係性が理解でき、プロスポーツがもたらす心理的效果が理解できた。また、そうした効果がある一方で、自治体による経済効果に関する調査報告が多く見られるなど、経済効果に対する自治体の関心・期待は高いと言える。

【考察】

実際にプロスポーツが地域にもたらす効果と自治体や地域が求めているものにはミスマッチが生まれていると考えられる。自治体や住民にとって一番の関心事はやはり経済効果と言える。しかし、これまでの研究や自治体が行った調査報告による経済効果の規模は、その地域にとって売上規模10億円程度の会社ができたのと同じぐらいの規模であり、その効果はあまり期待できないと言える。(武藤、2009)つまり、プロスポーツがもたらす経済効果はあまり期待できず、むしろそれ以外の効果が地域活性化や地域が抱える問題の解決策として必要であろう。また、プロスポーツのもつ多義性、多面性についても着目し、プロスポーツが単に「みるスポーツ」としてのプロダクトだけではなく、「するスポーツ」を刺激し、「競技スポーツ」や「生涯スポーツ」などのスポーツ振興を活性化することや行政としての役割を果たすなどプロスポーツの地域貢献の高さが伺えた。今後の課題としては、プロスポーツを公共財として捉え、経済効果を含め、それ以外の効果の効果を定量的に把握する評価基準、評価方法の検討が求められる。そして、今回明らかになったプロスポーツの存在意義を住民、自治体に示し、チーム、住民、行政が相互理解を深め、「三位一体」となった取り組みが必要と言える。